

Amami Station, Research Center for the Pacific Islands, Kagoshima University

とうしよけんぶんしつ
島嶼研分室だより

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室

No. 1

2015年10月

島嶼研奄美分室設立

奄美分室の抱負（高宮広土）	p2
薩南諸島の生物多様性研究（鈴木英治）	p2
薩南諸島の生物多様性研究プロジェクト紹介	p3
奄美分室ってこんなところ!	p4
奄美分室スタッフ紹介	p6
奄美分室活動報告	p6
学生島体験! 「キョーロー」 （和田佳津紗）	p8





奄美分室の抱負

国際島嶼教育研究センター 高宮広土

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室がこの4月に開設されました。私はこの分室が開設されたことにより、より一層本学が奄美群島へ貢献することを切望します。その貢献には3本の柱があります。1本目の柱は研究です。本学は奄美群島の「自然・生物の多様性と保全活動および文化・社会」の研究を積極的に実施してまいりました。その結果、この地域では世界に誇れる大変素晴らしい自然や文化があることがわかり、さらなる研究が必要です。と言われましても何が重要あるいは貴重であるか釈然としないかもしれません。特に若い中高生には。

そこで、2本目の柱ですが、私たちの研究成果を地元へ還元すること、つまり地域への貢献に力を入れていきたいと考えております。奄美分室を通して、研究会や公開講座などを開催し、研究成果をもとにした奄美群島の自然や文化の素晴らしさ皆様にご提供できればと存じます。奄美ご出身の素晴らしい研究者を多く存じ上げていますが、将来的にも地元の方々を中心に研究を実施していただくことがと

ても重要と思っております。特に地元の若手研究者の人材育成ということで、中高生が研究会や公開講座などに参加してくださることを心より願うものであります。

さらに3本目の柱として研究成果を奄美群島や国内に発信するだけではなく、海外へも紹介できればと思います。島嶼研では海外への発信ということで、2013年に *The Islands of Kagoshima* を出版いたしました。その第2刷が昨年度刊行されました。今年度は *The Amami Islands* を出版予定でございます。この本は、奄美群島の文化・社会、産業、自然、人と自然の関わりという章立てになっています。世界レベルにおける奄美群島の自然と文化の貴重さを島の人々や海外の人々と共有するために、国際会議などもこれからどんどん開催したいものです。

以上が私の分室に関する大きな抱負ですが、さらに奄美群島に貢献できるよう、多くの方と意見交換ができればと存じており、そのため分室の方へ気軽に足をお運びいただければ幸いです。



薩南諸島の生物多様性研究

理工学研究科 鈴木英治

近年奄美地域の生物多様性が注目を集めてきましたが、今年度から奄美群島を中心として薩南諸島の生物多様性の教育研究を実施するための特別予算を、文部科学省が鹿児島大学につけてくれました。今までも奄美地域の研究や教育に関わってきた人が多いのですが、鹿児島大学は「地域活性化の中核的拠点」を目指して努力することを中期目標にしていますから、奄美地域との連携もますます活発になるでしょう。

現在の生物多様性プロジェクトには約40名の鹿児島大学教員が関係しています。奄美には海や陸に、動物や植物の多様な生物が生活しています。またそれらは人跡未踏の地に生息しているのではなく、昔から人間社会と影響しあいながら存在し続けてきたので、人との関わりを調べることも重要です。そのように多様なテーマを調べるためには、多くの研究者の参加が不可欠なのです。現在は週一回のペースで南海日日新聞に本プロジェクトの研究者が連載記事を書いていますので、詳しくはそちらをご覧ください。

いただきたいのですが、陸上では海岸、河畔林から山地林の植生研究、希少種の保全と関係する系統解析、ほ乳類の生態や陸産貝類の地理的分布などを調べています。海では干潟の生物、魚類の分類や生態、藻類の分類などを研究します。また奄美には古くからの在来農作物が多く、貴重な生物資源であり消滅する前に保存することも重要です。人々がどのように自然と関わってきたかも大きなテーマで、地域の人たちにお尋ねして記録を残そうとしています。

このような教育研究活動の中核として、教員3名と職員1名が奄美市から貸与された建物に常駐する奄美分室が設置されました。今までも法文学部が運営してきた奄美サテライト教室などの活動がありましたが、教職員が常駐することはありませんでした。これからは奄美分室の教職員がそれぞれの研究を進めつつ、短期間の訪問では不足しがちだった地域の人たちとの触れ合いを継続し、他の研究者や地域の人たちとの橋渡しをしてくれると期待されています。

「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」 遂行中のプロジェクト課題一覧

奄美分室を拠点として行っているプロジェクトの一つ「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点形成」に携わる鹿児島大学教員名および研究課題名は、以下のとおりです。

＜陸上植物分野＞

鈴木英治	奄美大島の海岸と山地植生の研究
相場慎一郎	鹿児島県の異なる気温条件の森林における落葉分解
鵜川信	徳之島における常緑広葉樹林の群落動態の研究
遠城道雄	南西島嶼域における熱帯産ヤムイモの形態および成分特性に関する研究
川西基博	奄美大島の河畔植生の研究
宮本句子	奄美群島の野生植物の遺伝的多様性に関する研究
山本雅史	奄美群島在来カンキツ類の多様性の解明

＜陸上動物分野＞

坂巻祥孝	奄美群島でカンキツ樹を加害するゴマダラカミキリ類の遺伝子汚染
大塚靖	薩南諸島におけるブユが媒介するオンコセルカ（回旋糸状虫）
栗和田隆	奄美大島で同所的に生育するコオロギ数主管の音響干渉
津田勝男	奄美群島カンキツ産業保護の為に環境負荷軽減型ゴマダラカミキリ防除の試み
富山清升	薩南諸島地域における、陸産貝類の当初における進化学的・生物地理学的研究
福本しげ子	薩南諸島のアリ相と放浪種侵入によるアリ相の変化
藤田志歩・鈴木真理子	奄美大島の哺乳類分布と人間の林道利用がアマミノクロウサギに与えるインパクト

＜人と自然分野＞

桑原季雄	資源利用と環境保全の民俗知と現状
鵜戸聡	文学に見る人と自然の関わり
兼城糸絵	環境保全・利用の民俗知
高津孝	環境史研究：薩摩・琉球の博物学
高宮広土	琉球列島先史時代におけるヒトの適応過程

中路武士	記録映像から見る人と自然の関わり
西村知	環境保護における集落力
萩野誠	保護区設定が観光と経済に与える影響
橋本達也	考古学
平井一臣	環境保全と住民合意
松田忠大	島嶼間海運と環境問題
宮下正昭	環境問題とメディア・住民意識
山本宗立	唐辛子の多様性
渡邊芳郎	環境と人間の関係との考古学的研究

＜基礎分野＞

鹿野和彦・仲谷英夫	薩南諸島及びその周辺の新生代脊椎動物化石データベースの構築
井村隆介	奄美諸島の地形発達史研究
平瑞樹	薩南諸島における地理空間情報の収集と活用方法の検討
田浦悟・河邊弘太郎	薩南諸島の生物遺伝情報データベースの構築

＜水圏分野＞

本村浩之	奄美群島の魚類多様性の解明
久米元	リュウキュウアユの保全
鈴木廣志	淡水のエビカニ類の島嶼間分化
上野大輔	他種に共生・寄生する動物の多様性
佐藤正典	川海の境に生息する多毛類の生態に関する研究
河合溪	干潟の環境変動が二枚貝に与える影響
山本智子	奄美群島における干潟の底生生物群集
藤井琢磨	薩南諸島の六放サンゴ相
寺田竜太	薩南諸島の藻類相
濱田季之	海産生物由来の二次代謝産物
池永隆徳	薩南諸島に生息する魚類の味覚組織

奄美分室ってこんなところ！

鹿児島市から約 370km 南に位置する奄美大島に、今年の四月鹿児島大学国際島嶼教育研究センターの分室ができました。

『大学の分室ってどんなところ?!』

ここでは奄美分室の施設を紹介いたします。

場所は名瀬の中心地、奄美市水道課庁舎の2階にあります。裏門から入ってすぐ、木の看板のドアから入り、階段を上がると正面が分室の入り口です。



▲外玄関



▲分室の入り口

入ってすぐに、鹿児島大学の紹介コーナーと奄美群島に関する図書コーナーがあります。鹿児島大学の紹介コーナーでは、鹿児島大学にある学部・学科の紹介ポスターやパンフレットが閲覧できます。また、大学の紹介 DVD を視聴することも可能です。鹿児島大学を受験する生徒だけでなく、まだ「大学に興味がある」程度の生徒にも、是非、来ていただきたいです。



▲大学紹介コーナー



▲奄美群島文庫と DVD コーナー

そのほか、鹿児島大学発行のパンフレットやニュースレターなどを配布しています。奄美群島に関する図書コーナーでは、各町誌や民俗資料などが揃えてあります。一般の方も、お気軽にご利用・見学にお越しください。

部屋の中央にはミーティングスペースがあり、学内・学外、島内・島外問わず、多くの研究者に利用していただいています。主に、研究の打合せ、勉強会、研究会の中継などに使われています。



▲一般市民を交えた勉強会を開催



▲研究室

奄美分室には職員が4名おり、各自の机は部屋の奥に設けられています。調査で不在のことも多いですが、在席中はいつでも応対いたしますので気軽にお声がけください。

研究会の中継や勉強会についてはホームページやFacebookでお知らせしております。



奄美分室ホームページ

<http://cpi.kagoshima-u.ac.jp/AmamiStation/home/index.html>



奄美分室 Facebook

<https://www.facebook.com/amamist.kagoshima.u.jp>

Facebook では最新の情報や奄美分室職員の活動も載せています。

学内利用者向けの宿舍および公用車利用規約・申請様式も奄美分室ホームページで御覧いただけます。宿舍や公用車の空き状況も確認できます。学内専用設備の説明および申請については、ホームページ内の利用案内からダウンロードしてください。

長浜町にある名瀬公民館金久分館に実験室を借り受けています。生き物の標本作成や種同定・試料整理等の作業の他、標本の保管もおこなっています。※奄美分室実験等設備の利用は学内研究者および共同研究者のみに限ります。

これからも皆さんに利用していただける施設を目指していきますので、よろしくお願いいたします。



▲奄美分室外観



住所：奄美市名瀬柳町2-1 水道課庁舎2階
開室時間：9：00～16：00（平日のみ）

2015 年度 国際島嶼教育研究センター奄美分室のスタッフ紹介

センター長・教授

河合 湊 (かわいけい)

Tel: +81 (0)99-285-7392

E-mail: kkawai@cpi.kagoshima-u.ac.jp

専門分野: 海洋動物生態学

常駐期間: 5 月

特任助教

藤井 琢磨 (ふじいたくま)

Tel: +81 (0)997-69-4852

E-mail: tfujii@cpi.kagoshima-u.ac.jp

専門分野: 海洋動物分類学

常駐期間: 4 月～3 月

教授

高宮 広土 (たかみやひろと)

Tel: +81 (0)997-69-4851

E-mail: takamiya@cpi.kagoshima-u.ac.jp

専門分野: 先史人類学

常駐期間: 4 月、8 月～3 月

プロジェクト研究員

鈴木 真理子 (すずきまりこ)

Tel: +81 (0)997-69-4852

E-mail: msuzuki@cpi.kagoshima-u.ac.jp

専門分野: 動物行動学

常駐期間: 4 月～3 月

准教授

大塚 靖 (おおつかやすし)

Tel: +81 (0)99-285-7390

E-mail: yotsuka@cpi.kagoshima-u.ac.jp

専門分野: 衛生昆虫学

常駐期間: 7 月

事務補佐

福澤 文香 (ふくざわあやか)

Tel: +81 (0)997-69-4852

E-mail: afukuzawa@cpi.kagoshima-u.ac.jp

常駐期間: 4 月～3 月

准教授

山本 宗立 (やまもとそうた)

Tel: +81 (0)99-285-7391

E-mail: sotayama@cpi.kagoshima-u.ac.jp

専門分野: 民族植物学

常駐期間: 6 月



奄美分室の活動報告 (2015 年 4 月～9 月)

<講演会・観察会>

・奄美分室設置記念式典・記念講演会

・講演「島嶼研の紹介、奄美のすばらしさ」

・喜界島サンゴ礁サイエンスキャンプ

・第 20 回奄美大島ウミガメミーティング

・奄美の生物多様性観察会

: 4 月 25 日、奄美観光ホテルにて。

: 6 月 24 日、鹿児島県立大島高校にて。

: 8 月 19 日～8 月 23 日、喜界島サンゴ礁科学研究所にて (協賛および講師派遣)。

: 8 月 29 日、奄美分室にて (後援)。

: 9 月 26 日、住用干潟、原野農芸博物館にて。



▲奄美分室設置記念式典（4月25日）



▲奄美の生物多様性観察会（9月26日）

＜セミナー等＞

・奄美分室で語りましょう（島嶼研勉強会）

不定期開催で、研究者や一般市民が飲み物片手に肩肘はらずに集い語らい、教養を深める場として「奄美分室で語りましょう」を開催しています。第一回から第四回まで、のべ62名の参加がありました。皆さまの参加お待ちしております。

第1回：「島における唐辛子の様々な利用方法」山本宗立（鹿大・島嶼研）

2015年6月23日（火）17:30～18:30

第2回：「ムシが運ぶ感染症」大塚靖（鹿大・島嶼研）

2015年7月16日（木）17:30～18:30

第3回：「奄美の美味しい魚・珍しい魚」小枝圭太（鹿大・総合博物館）

2015年7月25日（土）17:30～18:30

第4回：「奄美のクジラ・イルカ最前線？」興克樹（奄美海洋生物研究会）

2015年8月29日（土）18:00～19:00

第5回：「植物はなぜ5000年も生きるのか」鈴木英治（鹿大・理工学研究科）

2015年9月7日（月）17:30～18:30

・島嶼研研究会ネット中継会

島嶼研郡元キャンパスで定期開催される研究会のインターネット中継を行っています。一般参加の方からの質疑も行われ、毎回の盛況となりました。2015年度上半期は計3回開催、のべ13名の一般参加がありました。



▲研究会の中継（6月15日）



▲奄美分室で語りましょう（7月16日）

＜奄美分室来訪者数＞

のべ198名（5月1日～8月31日）

～学生島体験！vol.1～

「キョーロー」

和田佳津紗（鹿児島大学法文学部人文学科4年）

「キョーロー」

私が最近覚えた、人の家を訪ねるときにかけ言葉、らしい。

大学を休学し住用町で『島の文化を学び、観光に活かす』という仕事をしている私は、住用町内のウッチェンキャ（お年寄り）にあちこちでお茶を頂きながら、色々な話を聞かせてもらっている。初めは島口バイリンガルの方の通訳つきで、最終的にはひとりで「はげ～」と相槌を打ちながら。鹿児島本土とも沖縄とも異なる奄美の歴史や文化の複雑さと多様さ。理解するには気が遠くなるほど、本に書かれていない豊かすぎる暮らしや思い出で溢れていた。月に一度ある八月踊りの練習に参加すると、中には意味がわからない歌詞もあるが、だんだん理解し踊りやメロディ一まで覚えてくるとこれがクセになる。最近の鼻歌だ。

そうして地域の中に入り暮らしていく中で、変わったのは人付き合いについての価値観。『良い人になれそう』奄美のどこが魅力か、と聞かれて私はよくこう答える。小さな地域では、近隣を知り、気遣い、助け合うことでお互いの暮らしが支えられている。「ちょっとご飯食べてきなさいよ～」「台風が来るから雨戸を閉めようね」暮らしてみれば、煩わしさや不便さを飛び越えて、そんな声をかけてくれる家族のような安心感が心地よい。

奄美はどこか懐かしい。初めて奄美を訪れた一昨年の夏、そして奄美に住み始めて一年たった今も浮かぶ、この不思議な感覚。その理由はきっと古い言葉や伝統が息づいているだけでなく、家族が待っているような『ただいま感』があふれているからだと思う。もうすぐ任期は終わってしまうが、また何度でもキョーロー、ただいま、と言って戻りたい。

（奄美市住用総合支所産業建設課 知の地域おこし推進員として奄美大島に滞在）



編集後記

光陰矢のごとし、あっという間の半年でした。ここで一区切りという訳にはいきませんが、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。研究材料の宝庫である南西諸島、その価値を内外に発信できるよう、日々楽しんで研究に取り組みます。 藤井琢磨

奄美大島に引っ越してきて半年、実はまだハブを見たことがないのです。聞き取り調査の中で、いかに奄美大島の人にとってハブの存在が大きいかわかりました。早く私も恐怖という名の洗礼を受けなければ。 鈴木真理子

島嶼研分室だより

平成 27 年 10 月 16 日発行

鹿児島大学

国際島嶼教育研究センター奄美分室

郵便番号 894-0032

鹿児島県奄美市名瀬柳町 2-1

TEL: 0997-69-4852 FAX: 0997-69-4853

E-MAIL: amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp

<http://cpi.kagoshima-u.ac.jp/AmamiStation/home/index.html>

ISSN: 2189-793X